

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

248X1125 3102 ✓

⑨日本国特許庁(JP)

⑩実用新案出願公開

⑫公開実用新案公報(U)

昭54—60953

⑪Int. Cl.²

識別記号

⑫日本分類

庁内整理番号

⑬公開 昭和54年(1979)4月27日

A 47 L 9/00

92(3) D 109

6630—3B

A 47 L 9/24

72 C 121

6630—3B

B 03 B 4/00

92(3) D 102

7305—4D

審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭吸引式掃除器用ゴミ分離器

横浜市金沢区六浦町1826—2

B 606

⑮実 願 昭52—134412

⑯出 願 人 中村哲士

⑰出 願 昭52(1977)10月6日

横浜市金沢区六浦町1826—2B6

⑱考 案 者 中村哲士

06

⑲実用新案登録請求の範囲

図面の簡単な説明

1. 上蓋5、下蓋6を有する透明な分離器本体3に、吸引されるゴミの入口1と出口2をとつける。

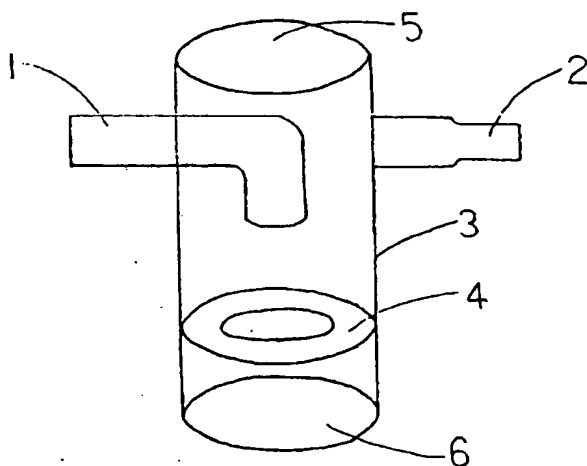
第1図は本考案の斜視図、第2図は本考案の正面断面図、第3図は本考案を実際に使用している時の斜視図。

ロ. 分離器本体3の内部に、ゴミの吹き上げ防止板4をとつける。

1はゴミ入口、2はゴミ出口、3は分離器本体、4は吹き上げ防止板、5は上蓋、6は下蓋、7は吸引式掃除器本体。

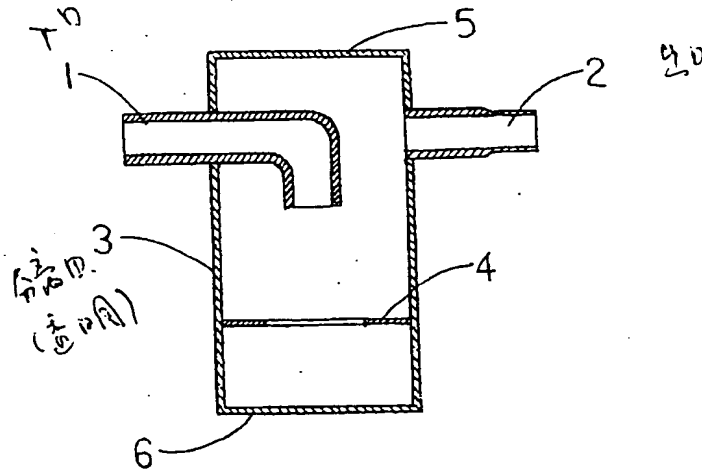
以上の如く構成されたゴミ分離器。

第1図

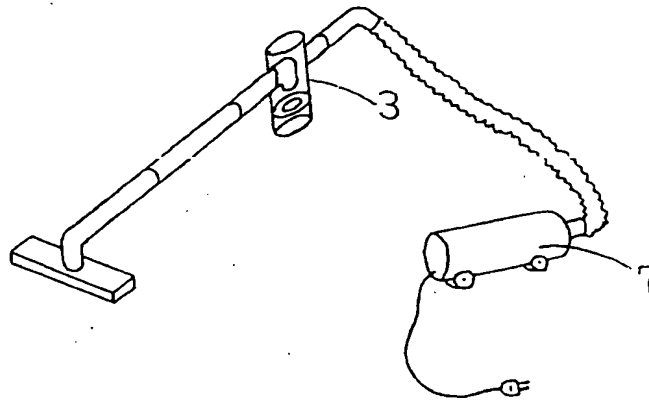


BEST AVAILABLE COPY

第2図



第3図



BEST AVAILABLE COPY



実用新案登録願

昭和52年10月6日

特許庁長官殿

1. 考案の名称 吸引式掃除器用ゴミ分離器

2. 考案者 (実用新案登録出願人に同じ)

3. 実用新案登録出願人

(郵便番号) 236

住所 神奈川県横浜市金沢区六浦町

1826-2 B606

氏名 印村 哲士

4. 添付書類の目録

(1) 明細書 1通

(2) 図面 1通

(3) 願書副本 1通

54-60953

52 134412

明 細 書

1. 考案の名称 吸引式掃除器用ゴミ分離器

2. 実用新案登録請求の範囲

イ. 上蓋 5、下蓋 6 を有する透明な分離器本体 3 に、吸引されるゴミの入口 1 と出口 2 をとりつける。

ロ. 分離器本体 3 の内部に、ゴミの吹き上げ防止板 4 をとりつける

以上の如く構成されたゴミ分離器。

3. 考案の詳細な説明

この実用新案は、吸引式掃除器で吸引されるゴミをより分ける分離器に関するものである。

従来の吸引式掃除器によれば、吸引された物はすべて掃除器本体の集塵袋に入り、

一般のゴミに針、貴金属及びガラス等が混つていてもそのまま捨てられるか、たとえ吸引されたとわかっていても探すのは難しかった。本案は、その欠点を除くために考案されたもので、これを図面について説明

54-60955

すれば

- イ、上蓋5、下蓋6を有する透明な分離器本体3に吸引されるゴミの入口1と出口2をとりつける。
- ロ、分離器本体3の内部にゴミの吹き上げ防止板4をとりつける。

以上の如く構成された分離器を従来の吸引式掃除器の柄の部分にとりつける。いま吸引式掃除器によりゴミを吸引するとゴミは1から入り2から出て掃除器本体7に入る。この時吸引されたゴミの中に混じっている針、釘、ガラス及び貴金属などの比較的重量物は底にたまる又たとえ下蓋6にぶつかり吹き上げられたとしても4にぶつかり下へ落とされる。一方一般の軽いゴミはそのまゝ上へ吹き上げられ出口2より掃除器本体に入る。本案は透明体でつくつてあるので吸い込まれた物がよくわかり好都合である。なお本案の下蓋6は、ねじ込み又はさし込みなる構造にすることにより分離

したゴミの取り出しが容易となる。又下蓋の内側を磁石板とすれば鉄等の異物分離に効果を發揮する。

4. 図面の簡単な説明

第一図は本考案の斜視図

第二図は本考案の正面断面図

第三図は本考案を実際に使用している時の斜視図

1 はゴミ入口

2 はゴミ出口

3 は分離器本体

4 は吹き上げ防止板

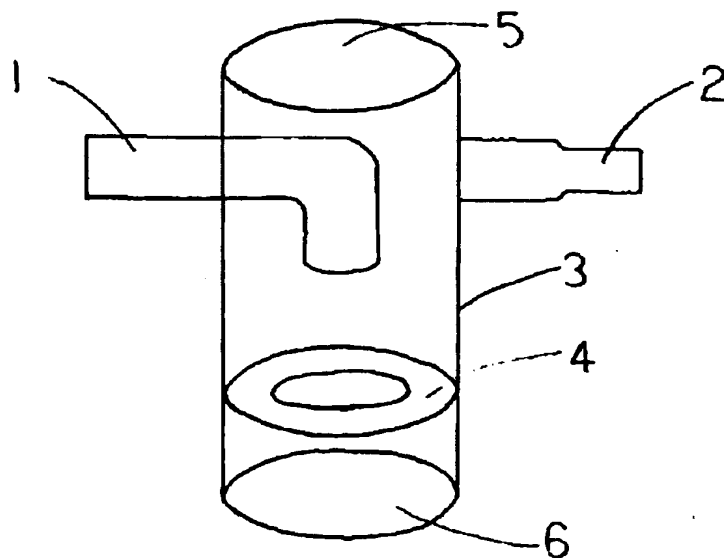
5 は上蓋

6 は下蓋

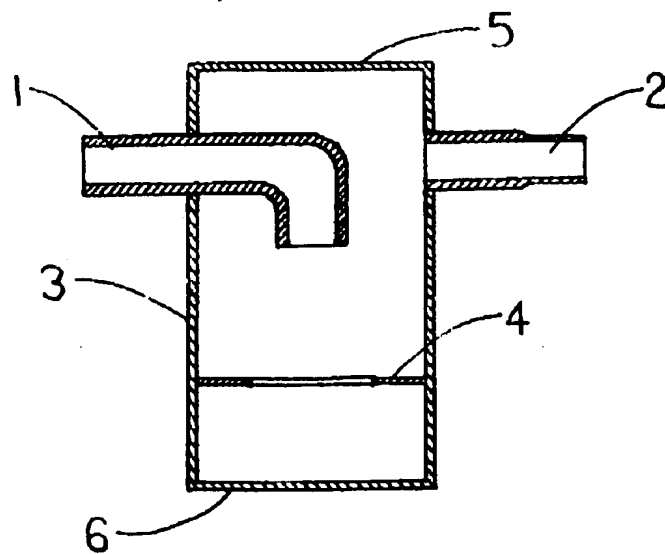
7 は吸引式掃除器本体

実用新案登録出願人 中村 哲士

第1図



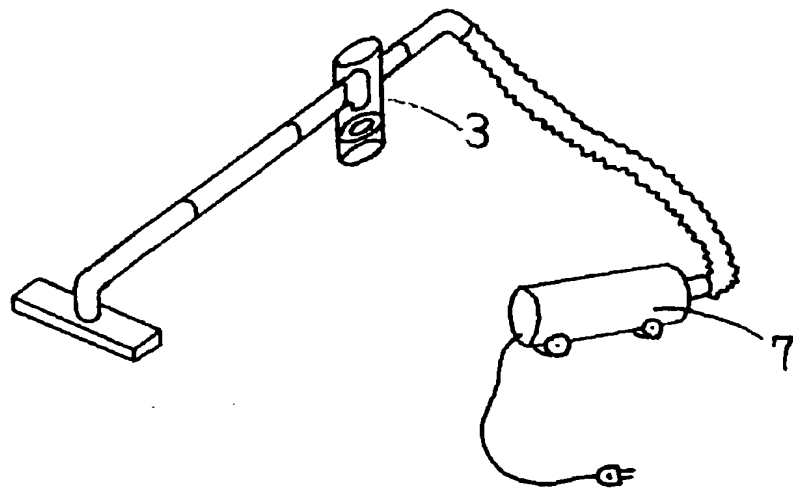
第2図



実用新案登録出願人 中村 哲士

60953 //2

第 3 圖



3 2/2

實用新案登録出願人

中村哲士